

# ながいき農業だより

発行 長生農業事務所 茂原市茂原1102-1・長生農業改良普及事業協議会  
 編集 長生農業事務所改良普及課 TEL 0475(22)1771 FAX 0475(25)2061  
 URL <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chousei/>

元気な長生農業人 その四十二

花を身近に!

安心・安全な商品を目指して!

茂原市 (有)三宅花卉園 三宅泰行さん

茂原市で球根・切花の栽培及び育種を行う有限会社三宅花卉園代表取締役の三宅泰行さんを紹介いたします。

## 〈就農の経緯〉

(有)三宅花卉園は父親の勇気が始めて今年五〇周年を迎えます。三宅さんは会社勤めの後、二十六歳で就農しました。それまで農業は未経験でしたが、就農後は農業事務所の行事等を通して、多くの農業関係者と接点を持つことができました。その縁もあり、オランダで一年間の農業研修も経験しました。帰国後、父から徐々に仕事を任されるようになり、三十八歳で代表取締役に就任しました。



三宅泰行さん

## 〈経営の概要〉

アルストロメリアやリューココリーネ、ラケナリアなどの球根・切花を約三千坪の面積で栽培しています。労力は、両親と妻に加え、社員三名、パート五名を雇用しています。



(有)三宅花卉園育種の代表品種  
アルストロメリア「ローズプリスタ」

## 〈現在の取組み〉

「安心・安全でより良いものを」という想いから、農業を使わず、有機肥料や微生物資材を使って栽培するオーガニックフラワーに三〇年前から取り組んでいます。切

花の出荷先は主に花き卸売市場で、高い評価を受けています。

また、花の普及活動にも力を入れていきます。化粧品メーカーと提携し、化粧品とオーガニックフラワーがセットになった商品を販売するなど、消費者に花を身近に感じてもらえるような取り組みを行っています。

## 〈今後の経営について〉

代表就任後に自社の経営状況を確認して、品目・品種の多さや不要な資材など、余分なことが多いことに気づきました。そこで、大学で学んだ経営の知識を生かして経営を見直し、コストカット等の経営合理化に取り組み、より利益を上げるなど、経営手腕を発揮してきました。

一方で、栽培面では独自の技術を開発しています。将来は自身の栽培のノウハウを提供するコンサルティングビジネスの構想も持っています。

農業Ⅱ大変というイメージがある中で、持続可能な経営モデルを作ることで、オーガニックフラワーを栽培する人が増えてほしいと考えています。「花の魅力を伝え、花きの裾野を広げていきたい」という三宅さん、今後のさらなる活躍が期待されます。

(改良普及課)

## サツマイモ もどくされびょう 基腐病について

サツマイモに大きな被害を与える基腐病の発生が、千葉県でも令和三年七月に確認されました。本病は感染した種いもや苗で広がるため、適切な対策でまん延を防止しましょう。

### 【病気の特徴】

- ・ヒルガオ科（サツマイモなど）にのみ感染します。
- ・感染した株は茎の地際部が黒から暗褐色に、茎葉は黄色や紫色に変色してしおれ、症状が進むと枯死します。
- ・いもでは主に、なり首側から腐敗します。

### 【防除対策】

- ・流通経路などが明らかで健全な種いもを用い、腐敗や傷、病斑がないかを確認、選別して使用します。
- ・苗床やほ場で疑わしい株を発見した場合には、直ちに抜き取り、袋に入れる等の処置をとった上で廃棄します。
- ・植付前に農薬で苗を必ず消毒します。あわせて、水はけが悪いほ場では発病しやすいので、排水対策を行います。

(改良普及課)



【感染したいもの腐敗の様子】



【種いもの腐敗、苗基部の黒変の様子】

注

写真は、農研機構生研支援センターイノベーションイノベーション創出強化研究推進事業（01202C）令和元年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」を基にしています。

## 水稲の被害軽減 ジャソポタニシ防除の ポイント

ジャソポタニシ（スクミリンゴガイ）は、近年、暖冬の影響などで個体数が増え、長生地域でも水稲への被害が増加しています。

ジャソポタニシの根絶が困難な状況の中で、水稲への被害を軽減させるためには、年間を通して継続的な対策の実施が必要です。

### ● 耕うんによる防除

ジャソポタニシは水田の水がなくなると土中に潜り、越冬した個体が翌年の田植え後に被害をもたらします。そのため、越冬する個体を減らすことが、翌年の被害の抑制につながります。

特に厳寒期（十二月下旬～二月）の耕うんにより、寒さに弱いジャソポタニシを土中から掘り出し、低温にさらすことで殺菌することができま。また、耕うん破砕による殺菌効果も見込めます。作業のポイントとして、①ほ場の土がなるべく固くなっている状態で実施します、②ロータリーの回転数を上げて、走行速度を落とすして耕うんします。耕うんの深さは通常の深さとし、浅くする必要はありません。③秋から春にかけて三回程耕うんします。その都

度、土が固くなったタイミングで行うことで、効果が高まります。

### ● 浅水管理による被害抑制

ジャソポタニシは水深が浅いと活動が抑制されるため、食害の危険がある移植後二～四週間までは水深4cm以下を維持する浅水管理を徹底してください。特に大雨後の水管理には注意が必要です。

なお、浅水管理の効果を発揮させるためには、水田内を均平な状態にすることが重要です。均平化を心がけた代掻きをしましょう。

### ● 薬剤散布による防除

浅水管理が困難な場合は、薬剤散布との組合せにより被害を防止しましょう。ほ場内全面に薬剤散布するのが望ましいですが、水深が深く貝が集まる場所に薬剤を散布するなど、臨機応変に対策しましょう。薬剤散布後は、少なくとも三～四日間は湛水状態（水深三～五cm）を保ちましょう。なお、農薬の使用にあたっては、薬剤の使用時期や使用量、使用回数などの安全使用基準を厳守してください。

(改良普及課)



# 流域治水と 田んぼダムのあらまし

## ○一宮川流域の治水対策

一宮川流域では、令和元年一〇月の豪雨による浸水被害が発生したことに伴い、新たな治水対策が行われることになり、令和三年二月に千葉県や関係市町村との間で協議が行われ、「一宮川流域治水協議会」が設置されました。

「一宮川流域治水協議会」では、会の名前にあるとおり、「流域治水」を新たな治水対策として取り組んでいくことを目的としています。

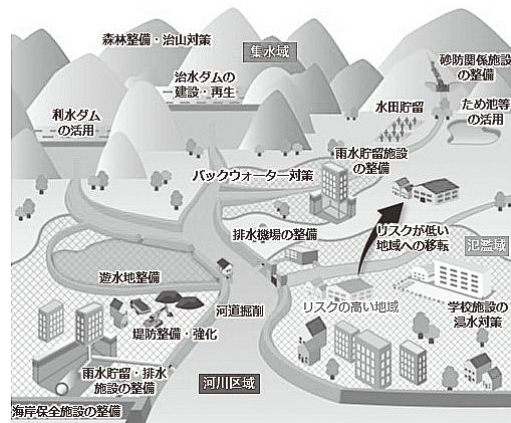
今回は、一宮川流域で取り組まれる新たな治水対策である「流域治水」と、農業や農村に期待される「田んぼダム」のあらましをお伝えします。

※一宮川流域の治水対策は、千葉県一宮川改修事務所が発行する「一宮川流域通信」で詳しく説明されていますので、そちらをご覧ください。

## ○流域治水とは何か？

「流域治水」とは、今までの河川施設の整備に加え、洪水の被害を減らす地域の取り組みをいいます。近年、大量の雨が短い時間に降ったり、強い雨が長い時間降り続けるといった、今までとは異なる

災害が起きやすい雨の降り方が問題になっていきます。その対策として「流域治水」が打ち出され、①できるだけ洪水を防ぐ施策、②被害が出る区域を減らす施策、③被害を軽くしたり早期に復旧するための施策という三本の柱で成り立っており、①は河川整備等（ハード対策）にあたり、②と③はソフト対策にあたります。



（国土交通省「流域治水の推進」より転載）

このうち、②と③のソフト対策は、「河川で一度に受けきれない水を、災害が起きない土地へ一時的に貯めた上で、時間をかけてゆっくり流す」ことを目的としています。

## ○農業や農村に期待される取り組み

「流域治水」のなかで農業や農村に求められている役割は、ソフト対策である②被害が出る区域を減らす施策に含まれています。

その施策には「田んぼダム」と「ため池の洪水調節機能」という二つの手段がありますが、「ため池の洪水調節機能」は規模の面で効果が限定的であることから、一宮川流域における「流域治水」では、主に「田んぼダム」に期待が集まっています。

「田んぼダム」の期待が大きい理由は次の三つです。第一に水田が水を貯める機能を有している施設であり、第二に水田は上流・中流・下流のいずれにも存在している、第三に面積が広大である、これらの点から総合的に見て、実施した際の効果が高いと考えられています。

## ○田んぼダムとは？

「田んぼダム」の方法は単純なもので、一般的に水稻栽培では五センチ程度の深さで水を張りますが、「田んぼダム」を実施する場合は、大雨が降った際、一時的に一〇〜一五センチ程度と少し深く水を張ります。

この「少し水を深く張る」ことで、水田へ一時的に多くの水を貯めて、市街地や河川へ流れ出る水の量を減らす効果が期待されています。

田んぼダムの実施手法は色々ありますが、簡単なものでは排水ますの堰板を高くしたり、排水用の塩ビ管の出口にエルボをつけて水田から流れ出る水の量を調節する

とともに、「少し水を張る」ようにします。また、しっかり水を貯める場合には、専用の排水ますを設置することもあります。

## ○田んぼダムの問題点

「田んぼダム」の問題点として、次のようなものが挙げられます。

① 営農期間中は、稲の生育時期によっては「田んぼダム」は困難

② 担い手に委託されている場合、稲刈り期間が長くなっており、収穫前の水田では「田んぼダム」は困難

③ 地域として「田んぼダム」に取り組める体制を整える必要がある。

④ 「田んぼダム」を行って発生した農作物や施設の被害は現状では災害として認定されていない

⑤ 水と一緒に水田へゴミが入りこんだり、稲わらが集まってしまふ

## ○長生地域の状況

現在、茂原市・白子町・長南町などで「田んぼダム」の取り組みが行われています。「一宮川流域治水協議会」においても「田んぼダム」の機能について議論が行われており、地域全体での実施へ向けた具体的な検討が進められる予定です。

（指導管理課）

### 長生農業独立支援センター 研修修了生紹介

長生農業独立支援センター（以下、センター）は一宮町、長生村、白子町、JA長生、長生農業事務所を構成員として、令和元年六月に発足した、新規就農希望者の支援機関です。同年八月には農業次世代人材投資事業（準備型）の研修機関に認定されました。令和二年度には二名の研修生が栽培技術を中心に研修を受け、無事に修了しましたので御紹介します。

#### 【伊藤智佳子さん】白子町

伊藤さんは岩手県出身で、大学卒業後、会社勤務を経て、施設野菜での独立就農を希望してセンターを訪れました。白子町の複数のトマト農家で一年間の研修を終え、



本年六月から同町内で借りた三百坪のハウスでトマト栽培を始めています。

自分のハウスを持ち、規模も六百坪に拡大するのが当面の目標です。

#### 【内條祐一さん】長生村

内條さんは柏市出身で、農業をやりたいという想いからセンターで研修先の紹介を受け、研修農家の御厚意で農地も借りることが出来ました。

就農一年目の今年は、ネギ四〇aを作付けしています。将来的にはネギの周年栽培をめざしており、来年は夏ネギにも挑戦する予定です。生産技術を覚えながら徐々に面積を広げていきたいとのこと（改良普及課）



令和三年度、長生地区から推薦した田中陽一氏の指導農業士認証が決定しました。

### 千葉県指導農業士 新規認証者紹介

田中氏は長生村で水稻を中心に露地野菜との複合経営を行っています。省力化技術を取り入れ、大型コンバインやGPS付き田植機をいち早く導入しています。

氏は、人望も厚く、地域では農業委員を歴任、現在も複数の組織の役員を務めています。地域の農地を積極的に借り受け、農地保全にも寄与するなど、今後、リーダーとして一層の活躍が期待されます。（改良普及課）



農地中間管理事業を活用してみませんか

### 農地中間管理事業を 活用してみませんか

○農地を貸したい方は御相談ください

必要とする方に貸し付ける農地を探しています。農業からのリタイアを考えている、相続した農地の管理に困っている、水田をやめて畑に専念したいなどの理由により、貸したい農地がある方は、農地のある市町村又は、公益社団法人千葉県園芸協会（農地中間管理機構（以下機構））に御相談ください。機構が市町村と協力して農地の受け手を探します。また、賃料の徴収、支払いは原則機構が行います。

#### ＜経営転換協力金＞

この他に、離農する方や、農業部門を減らして経営転換する方、農地の相続人で農業経営を行わない方が、その農地を、機構を通じて受け手に貸した場合、経営転換協力金が支払われます。令和三年度の交付単価は、一〇アール当たり一万五千元で、一戸当たりの上限交付額は五〇万円です。なお、遊休農地の所有者は解消等をする必要があります。

農地の借り受けを希望する場合も御相談ください。  
○一定の要件を満たすと地域や農地の出し手に協力金が支払われます

農地の貸借に関する情報は、農地がある市町村農政担当課、制度に関する情報は、（公社）千葉県園芸協会農地部（電話〇四二二二三三〇一一）までお気軽にお問い合わせください。（企画振興課）

#### ＜地域集積協力金＞

実質化した人・農地プランの策定地域、または実質化に向けた工程表が作成された地域で、地域内の農地を一定割合（一般地域で二〇パーセント超、中山間地域で四〇パーセント超）機構に貸し付け、交付対象面積の一〇パーセント以上が新たに担い手に集積される等

（企画振興課）